

# 環境にやさしいピーマンの養液土耕栽培の普及

鹿島地帯のピーマン栽培は作付面積約 466ha と全国一の産地となっています。近年、環境問題が重要視される中、農業分野においても環境に配慮した栽培技術の開発が求められています。ピーマンの養液土耕栽培は、平成 14 年度から鹿島地帯特産指導所において鹿南地域の砂質土壌に適した管理方法が検討されてきました。その結果、施肥量の削減と収量の増加につながる成果が得られ、平成 16 年度の「普及に移す成果」としてピーマンの養液土耕栽培マニュアルが報告されました。

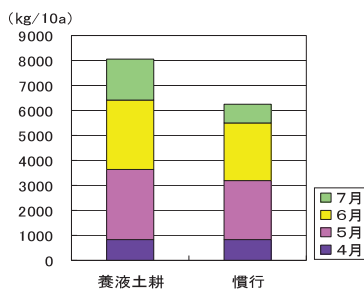
普及センターでは平成 17 年度から現地実証ほを設置し調査を行ない、養液土耕栽培では慣行栽培に比べて窒素成分で約 30%の減肥となり、収量が 10%程度増加するという結果が得られました。

## ● ピーマンの養液土耕栽培 ●

養液土耕栽培は、「作物の生育ステージにあわせ作物が必要とする養分・水分を、点滴かん水チューブを利用して毎日供給する」栽培方法です。慣行栽培に比べて施肥量・かん水量を節減できる環境保全型技術です。また、養水分管理が自動化でき作業の省力化が図れ、増収効果も期待できます。平成 20 年度までに神栖市、鹿嶋市で 25ha の普及面積になりました。

ピーマン養液土耕栽培の普及状況

	面積 (ha)	台数 (台)	戸数 (戸)
H17 年度まで	10	48	39
H18 年度	9	44	37
H19 年度	2.5	7	7
H20 年度	3.3	13	6
合計	24.8	112	89



無加温半促成栽培における養液土耕栽培の収量

## ● ピーマン養液土耕現地試験 ●

平成 20 年度は、2 月定植の無加温半促成栽培で現地試験を行ないました。その結果、慣行と比較して窒素施肥量が約 50%に削減され、収量が約 129%となりました。

## ● 現地検討会の開催 ●

普及センターでは、現在養液土耕栽培が多く普及している J A しおさい青果物生産部会や、鹿島地帯特産指導所と協力して、養液土耕現地検討会を開催しました。J A の 2 組織の他、任意組織からも多数の参加があり、活発な検討がなされました。



養液土耕現地検討会